

広島市立広島市民病院基幹施設 精神科専門医研修プログラム



広島市立広島市民病院基幹施設
精神科専門医研修プログラム管理委員会

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：広島市立広島市民病院基幹施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：和田 健

住 所：〒730-8518 広島県広島市中区基町 7-33

電話番号：082- 221 - 2291

F A X：082- 223 - 5514

E-mail：kenwada1222@sepia.megaegg.ne.jp

■ 専攻医の募集人数：（ 3 ） 人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒730-8518 広島県広島市中区基町7-33

広島市立広島市民病院

TEL：082-221-2291

FAX：082-223-5514

担当者：和田 健

■ 採用判定方法：

プログラム統括責任者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

広島市民病院精神科は、神経科・精神科として昭和 41 年 3 月に開設され、精神疾患のみでなく神経疾患にも対応してきた。時代の趨勢もあって徐々に専門分化し、精神科・神経内科としてひとつの病棟を共用していたが、病院の改築などにも伴い、2007 年 2 月より精神科病棟 28 床が独立した。現在も脳神経内科とは隣り合わせて外来診療を行い、カンファレンスなども行って緊密に連携している。これまでも人事的には岡山大学、広島大学と交流があり、双方の治療文化を経験することが可能である。また、広島大学病院を核として県内の総合病院精神科、精神科専門病院などの医療機関のみならず、精神保健福祉センター、こども家庭センターなどの行政機関までも有機的につながるネットワーク（広島精神医療ネットワーク）を構築しており、臨床面、教育面、研究面において強い互惠関係にある。そのため、このネットワークを活用することにより、3 年間の専門研修においては効率的に幅広い臨床経験を積むことができ、さらに 6 年目以降の研修においてもさまざまな選択肢を提供することが可能である。

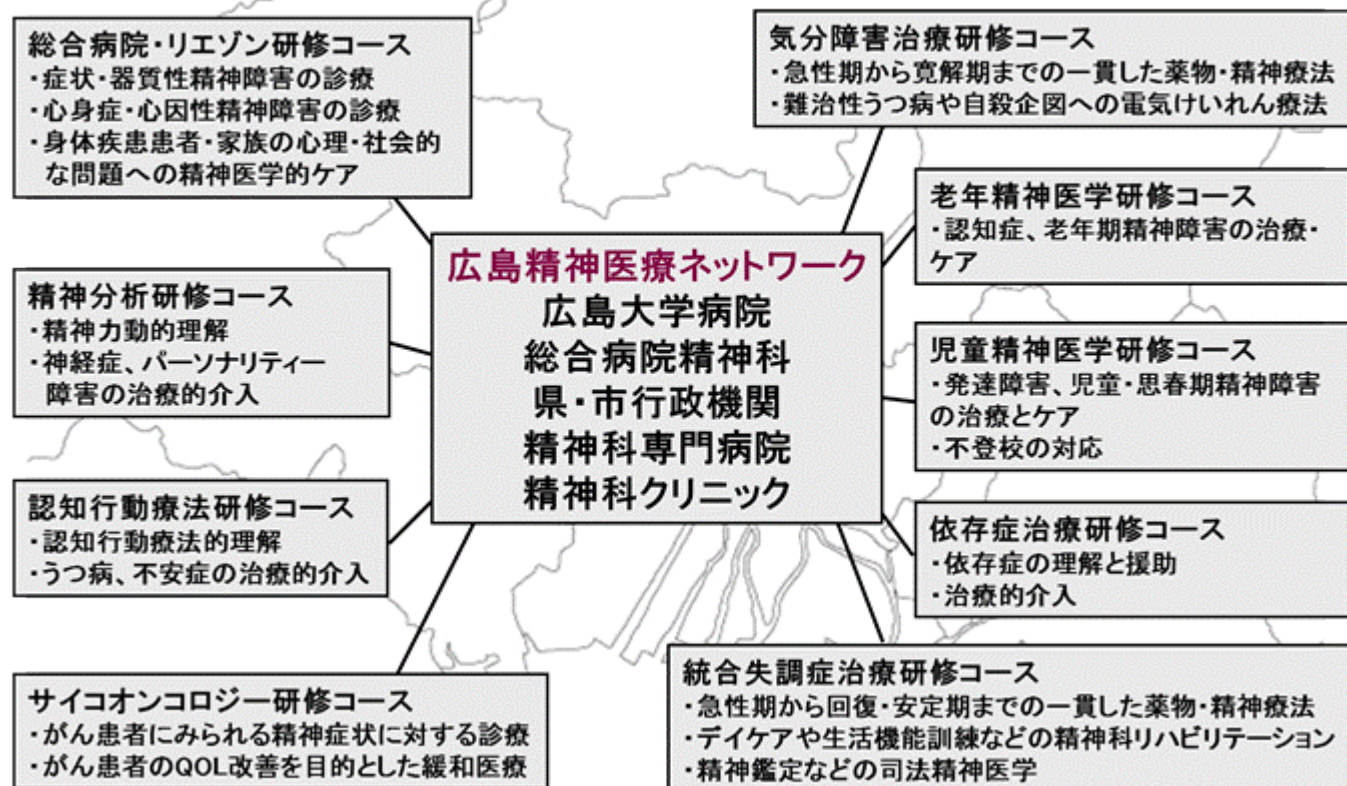
具体的には、1 年目は広島大学病院で研修を行い、精神医学・医療の基本をじっくりと習得する。2 年目には広島市民病院精神科において、児童から老年期精神障害、器質性から心因性といった多様な症例を数多く診療する。3 年目上半期には、精神科専門病院において、精神科救急を中心に地域精神医療、依存症も含めた幅広い診療を経験する。3 年目下半期には、各専攻医の関心と病院の特徴が合致する研修を選択できる。これらの経験を通じて、まずは精神科ジェネラリストとしての臨床力を向上させることにより確実に専門医取得が可能となり、更に高度な専門性の獲得に繋がる研修となる。

2 年目の研修施設で基幹施設となる広島市民病院精神科は、総合病院精神科として 28 床の開放病棟を持ち、隔離も可能な観察室を有しており、難治例、身体合併症例などにも対応し、より緻密な精神症状の診断と治療の基本の習得に適している。器質性・症状性精神障害、コンサルテーション・リエゾン精神医療、重症気分障害

などが数多く経験できる。専攻医は入院患者の主治医となり、指導医の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションなどの多職種と協働し、各種精神疾患に対して生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。外来患者もほとんどの精神疾患を網羅しており、研修の過程で幅広い精神疾患の診断及び治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

また、3年目上半期の研修施設である瀬野川病院、三原病院、草津病院の各精神科専門病院は全て精神科救急システムに参画しており、統合失調症を中心に精神科救急症例も豊富である。3年目下半期の研修施設はそれぞれ、地域精神医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、司法精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなどの専門性を有している。専攻医は、基本的な精神科の診療技術を体系的に習得できるのみならず、関心の高い専門領域での研修を選択可能である。

広島精神医療ネットワークと連携した研修コース



II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：48 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3716	1261
F1	969	454
F2	6357	1585
F3	6205	797
F4 F50	4178	378
F4 F7 F8 F9 F50	3649	363
F6	355	64
その他	641	104

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：広島市立病院機構 広島市立広島市民病院
- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：荒木 康之
- ・プログラム統括責任者氏名：和田 健
- ・指導責任者氏名：和田 健
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 28 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	200	30
F1	20	3
F2	266	39
F3	730	116
F4 F50	920	68
F4 F7 F8 F9 F50	950	79
F6	10	4
その他	55	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高度急性期医療を担う地域基幹病院の総合病院精神科である。多数の救急患者、重症患者、がん患者を対象としたコンサルテーション・リエゾンサービスを展開している。脳神経内科、脳神経外科との連携も良好で、脳神経疾患に伴う器質性精神障害の症例も多い。開放病棟を利用した入院診療では、気分障害を中心とした急性期医療、適応障害へのストレスケアなどを提供している。電気けいれん療法も麻酔科との連携のもと、年間 400 件以上を行っている。画像診断を含む初期診断を中心に認知症性疾患の診断治療を年間 200 件以上行っている。

B 研修連携施設

① 施設名：広島大学病院

- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：木内 良明
- ・指導責任者氏名：岡本 泰昌
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 20 ）床

・・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	58	7

F1	18	5
F2	345	15
F3	534	31
F4 F50	820	91
F4 F7 F8 F9 F50	234	30
F6	74	3
その他	19	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は746床を有する県内唯一の大学病院である。精神科病床は20床の開放病棟と比較的に少ないが、隔離・観察室も確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応し、より緻密な精神症状の診断と治療の基本の習得に適している。また、看護、心理、リハビリテーションの各領域と密接なチーム医療を行える人的資源が豊富な点も特徴である。外来患者もほとんどの精神疾患を網羅しており、研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。また、広島大学病院精神科は睡眠障害専門外来を通じて、小児・思春期精神障害症例の受診が多数あり、児童青年精神医学を専門とする医師の指導を受け、入院・外来治療を経験する。

② 施設名：特定医療法人 大慈会 三原病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：小山田 孝裕

・指導責任者氏名：小山田 孝裕

・指導医人数：（ 3 ）人

・精神科病床数：（ 405 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	249	236

F1	68	48
F2	577	304
F3	287	69
F4 F50	238	37
F4 F7 F8 F9 F50	330	50
F6	30	7
その他	31	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 405 床の精神科病床を有する精神科病院である。60 床の急性期治療病棟を有し他の 2 か所の精神科病院とともに広島県東部の精神科救急医療体制を担っている。主な医療圏は三原市や尾道市であるが、山陽道、尾道道、西瀬戸道とのアクセスが良く、福山市、東広島市、広島県北部、愛媛県からの患者も受け入れている。中山間地域や島しょ部に隣接しており地域における精神医療を学ぶことができる。105 床の認知症疾患治療病棟を有しており平成 22 年 7 月から広島県東部認知症疾患医療センターに指定されている。アルコールリハビリテーションプログラム、アルコール低減治療プログラムも有しており依存症治療も積極的に行っている。

③ 施設名：医療法人 せのがわ 瀬野川病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：津久江 亮大郎

・指導責任者氏名：加賀谷 有行

・指導医人数：（ 7 ）人

・精神科病床数：（ 325 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	164	85

F1	501	203
F2	1081	279
F3	394	109
F4 F50	297	25
F4 F7 F8 F9 F50	98	25
F6	78	14
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県・広島市精神科救急医療センターと広島県西部地区精神科救急医療施設の指定を受けた県内の精神科救急の中核病院である。病床は 312 床。救急入院料病棟を 2 病棟 112 床を有する急性期症例の豊富な精神科病院であり、措置入院件数は毎年約 70 件である。修正型電気けいれん療法を実施しており、薬物療法抵抗性や緊急性の高い症例へ対応している。地域ケアにも力を入れており、デイケアと訪問看護の件数はそれぞれ年間延べ 4 万件を超え、就労移行支援事業、就労継続支援事業 B 型、地域生活支援センターなど、地域生活を支援するためのトータルケアを行っている。広島県から依存症治療拠点機関の選定を受けており、アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症等と対象に依存症リハビリテーション・プログラムを実施している。また、司法鑑定業務や刑務所での精神科診察など、司法精神医療についても経験可能である。近年増加している認知症に対しては、広島市東部認知症疾患医療センターに指定されている。このように当院では、精神科救急、精神科リハビリテーション、依存症、司法精神医療、認知症など幅広い研修が可能である。

④ 施設名：医療法人社団更生会 草津病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：佐藤 悟朗
- ・指導責任者氏名：矢田 博己
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 429 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1271	319
F1	267	105
F2	1876	400
F3	1256	312
F4 F50	740	79
F4 F7 F8 F9 F50	100	8
F6	84	17
その他	411	62

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科救急医療施設であり、広島市西部認知症疾患医療センターも受託していることから、年間初診患者数2,329人（2017年度実績）と多くの症例を経験することができる。

入院においても精神科救急病棟（5病棟265床、2019年3月1日現在）を保有しており、入院患者数は1,495人、平均在院日数は89.1日（いずれも2017年度実績）と精神科急性期医療を十分学ぶことができる。

疾患については、統合失調症、認知症、気分（感情）障害・神経症性障害を中心とした診療を行っている。

統合失調症においては、救急診療体制（夜間・休日の入院件数257件、措置入院58件、いずれも2017年度実績）を行っており、豊富な症例を経験することができる。また、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン・m-ECT治療を行っている。在院日数短縮化には退院後の手厚いフォロー体制が必要である。当院の外来リハビリテーションプログラムはデイケアのみでなく、軽症患者は就労支援事業所（就労移行・就労定着）、就労継続支援B型事業所、そして長期入院患者などの重症者には自立訓練事業所（中間施設）による在宅移行支援や3つの訪問看護ステーションによる訪問看護（34,094件、2017年度実績）など多層性の地域生活支援を行っている。

認知症においては、認知症疾患医療センターの役割を担い、認知症の鑑別診断（744件、2017年度実績）・治療、認知症に伴う行動心理症状（BPSD）の入院治療（340件、2017年度実績）、また身体科、高齢者施設、地域包括支援センターなどとの連携を学ぶことができる。

気分障害においては、ストレスケア病棟による入院治療のみでなく、うつ病・

不安症に対する集団認知行動療法や双極性障害の集団心理教育、復職のためのリワークプログラムなど、気分障害の初期治療から社会復帰支援まで幅広く学ぶことができる。

⑤ 施設名：ふたば病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：高見 浩
- ・指導責任者氏名：小鶴 俊郎
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 208 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	544	188
F1	11	7
F2	205	101
F3	216	40
F4 F50	161	9
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	9	3
その他	39	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

平成16年9月に策定された「精神保健福祉施策の改革ビジョン」に基づき、当院でも精神障害者の地域医療および地域生活支援の強化を図っている。具体的には、①当法人内に属するケアマネジメント機関（障害相談支援事業・包括支援センター・居宅介護事業等）と精神科訪問看護による多職種での、患者あるいは障害の特性や課題に合わせた在宅訪問を基盤とした支援、②状態や希望、経済力に応じた複数のグループホーム（介護包括型及び外部利用型等）の整備により長期及び重度の入院患者の円滑な地域移行支援、③精神科デイナイトケア及びショ

ートケアにおける、疾病教育や生活リハビリの提供、及び訪問看護、訪問リハビリ、地域活動支援センター等の24時間サポート体制での地域定着支援・再発予防支援、④地域援助者を含む多職種による精神科デイナイトケア及び外来作業療法を通じ、社会参加を目標とした就労準備支援、⑤未受診者に対する相談及び初診から入院や通院までの一体的なケースマネジメント、などを行っている。また、呉圏域における高齢化率は広島県および全国水準を大きく上回っており、認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームの活動を通じ、オレンジプランに掲げられた「認知症の早期診断・早期対応をきちんと行い、在宅生活をできるだけ長く」という目標の実現に向け、地域への訪問や認知症サロンの開催、医療・福祉・行政機関等との連携、認知症に関する普及啓発などの取り組みを行っている。また、当院は日本老年精神医学会専門医認定施設に認定されており、老年精神医学の専門的研修が可能である。

⑥ 施設名：独立行政法人 国立病院機構 賀茂精神医療センター

- ・施設形態：独立行政法人（国）
- ・院長名：坂尾 良一
- ・指導責任者氏名：寺井 英一
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 330 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3 7	2 4
F1	1 2	7
F2	5 1 0	1 2 8
F3	2 3 5	4 0
F4 F50	1 4 9	1 8
F4 F7 F8 F9 F50	3 5 9	2 8
F6	7	4

その他	0	0
-----	---	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、山陽地区における唯一の国立病院機構の精神科専門病院であり、広島県全域の精神科救急の役割を担っている。保健所等と連携し精神科救急に携わり、急性期から精神保健福祉士、心理療法士、作業療法士などの多職種による治療活動を行い、デイケア、訪問看護の部門も設置し在宅復帰後も地域の医療需要に応じている。また、精神保健福祉法だけでなく、医療観察法の指定入院医療機関としての機能を有するとともに、広島県の災害医療における拠点病院としてD P A Tチームの養成を行うなど、多岐にわたる精神医療を実践している。

当院の専門医研修指導医は、精神科リハビリテーション、地域精神医学、精神科救急、法と精神医学に高い専門性を持っており、指導医の指導の下、リハビリテーション症例、精神科救急症例、クロザリルの処方、医療観察法入院医療の実際や、精神鑑定の実際を経験できる。

⑦ 施設名：医療法人 緑誠会 光の丘病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：馬屋原 健
- ・指導責任者氏名：石岡 芳隆
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 175 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	178	52
F1	58	33
F2	467	80
F3	272	32
F4 F50	166	17
F4 F7 F8 F9 F50	249	29
F6	11	1

その他	9	4
-----	---	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県東部に位置する福山市（人口約 47 万人）という地方中核都市の郊外にある 175 床の小～中規模病院である。人口増加率の高い駅家町や神辺町を含む福山市北西部、そして高齢化率の高い府中市市街地区域における唯一の精神科病院として、また福山・府中二次医療圏における唯一の認知症疾患医療センターとして地域の総合的な精神科医療・相談機関としての役割を果たしている。平成 30 年 4 月より第 7 次広島県保健医療計画におけるアルコール依存症治療の地域連携拠点病院に指定されている。そして治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの登録医療機関でもある。

平成 29 年度の初診患者数は 520 人、1 日平均外来患者数は 107 人、入院患者数は 230 人、退院者数は 227 人である。また認知症疾患医療センターの実績としては認知症疾患外来患者数 1663 人（内鑑別診断数は 186 人、入院者数 61 人）である。当院の特徴の 1 つとして総合回診を毎週火曜日の午前中に常勤医師、看護師、薬剤師、PSW、CP、OTR、栄養士で行っている。各病棟の入退院報告、入院 2 か月経過時アセスメント、措置入院患者及び医療保護入院患者の定期病状報告を簡潔に行い多職種が参加し様々な意見を反映させる場として機能している。また治療の平準化を目指し 3 疾患（統合失調症、アルコール依存症、認知症）のクリニカルパスの導入しておりクリニカルパス推進委員会を発足してより良いクリニカルパスの作成及び実施に向けた検討を行っている。また、平成 28 年 9 月に電子カルテを導入し今まで以上に業務の合理化、院内における情報の共有化を図り、多職種協働によるより上質なチーム医療を実践している。

⑧ 施設名：医療法人翠星会 松田病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：松田 文雄
- ・指導責任者氏名：松田 文雄
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 110 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	4

F1	6	1
F2	218	34
F3	195	16
F4 F50	523	5
F4 F7 F8 F9 F50	1108	54
F6	51	3
その他	59	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

乳幼児、児童思春期、成人期、老年期すべての年代に渡る精神科臨床を対象とする。中でも児童思春期は、他施設では経験できない県内唯一の児童思春期精神科専門病棟（30床）を有しており、外来および入院で多数の臨床研修を履修できる。

当院は児童・思春期の心の問題に対して専門的治療を行っていることが特徴である。児童・思春期の心の問題には、不登校、自傷行為、家庭内暴力、引きこもり、摂食障害、強迫性障害、統合失調症や気分障害（双極性感情障害ほか）の精神疾患、発達障害など様々なものがあり、それらの問題は本人の心の苦しみを伝えるメッセージであったり、心の苦しみにから逃れる為の手段であったりすることが多い。治療を行うに際しては、本人の言葉を傾聴し、態度や行動から伝わるものを受け止め、心の動きを理解していくことを大事にしている。そのことが安定した治療関係を作り上げ、本人の心の安定や成長に役立つと考えている。このような力動的精神医学に基づき、病棟では毎日カンファレンスに様々な職種のスタッフが参加し、チーム医療、入院治療を行っている。児童・思春期の治療に際しては、家族、学校、職場関係者の方からの相談にも応じ、本人への関わりについて助言することも行っている。

外来は、月曜日から土曜日まで診療を行っている（初診50件、再診1600件／月）。精神科訪問看護は院内で行っており、広島市内全域を訪問（110件／月）。精神科デイケアは3つのプログラムがあり、集団活動や就労支援を目指す方のステップアップグループ、引きこもりの方等を対象とした個別グループ、さらに発達障害の診断のある小学生グループである。土曜日は心理技術者等と連携し、ペアレントトレーニングを行っている。外来患者の年齢層は20歳未満が半数となっている。成人の発達障害診断目的のための患者も多く、必要に応じて診断のための検査入院プログラムがある。また、他機関と連携しながら就労に向けて取り組んでいる実績がある。

平成30年4月より、第7次広島県保健医療計画（精神疾患対策）における

発達障害および児童・思春期精神疾患の県連携拠点機能の役割を担う医療機関として、摂食障害に対応できる地域連携拠点機能の役割を担う医療機関として指定を受けている。

⑨ 施設名：広島第一病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：松岡 龍雄
- ・指導責任者氏名：松岡 龍雄
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 200 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	63	62
F1	4	33
F2	291	84
F3	193	31
F4 F50	1	8
F4 F7 F8 F9 F50	43	22
F6	1	8
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域精神科医療に積極的に取り組んでいます。専門医療としては、難治性精神疾患治療（クロザピン・m-E C T）、認知症があり、各ステージに合わせた専門治療が可能です。また、医療観察法指定通院医療機関に指定されており司法精神医学も取り組んでいます。また、精神科救急施設ではありませんが、積極的に時間外等の救急患者の対応も行っています。入院患者の中に身体合併症を有する患者が多いのも特徴で、なるべく他院ではなく院内で診るような体制で取り組んでいます。また、通所リハは精神科デイケア・重度認知症デイケアを有し、精神科在宅医療も訪問看護ステーションから24時間サービスを提供し、様々な精神疾患をもつ在宅患者を支援しています。

⑩ 施設名：医療法人社団 知仁会 メープルヒル病院

- ・施設形態：民間精神科病院
- ・院長名：石井 知行
- ・指導責任者氏名：石井 知行
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 296 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9 3 7	2 5 4
F1	4	9
F2	5 2 1	1 2 1
F3	1 8 9 3	1
F4 F50	1 6 3	2 1
F4 F7 F8 F9 F50	1 7 8	3 8
F6	0	0
その他	1 8	2 4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神一般・精神療養病棟、認知症治療病棟、療養病棟、介護療養型医療施設から病棟は成り立っている。

身体－精神－社会の三つの軸においてトータルに理解し治療と支援を行うという基本理念から精神疾患患者に対しても身体合併症に対する検査と治療を手厚く行っている。

認知症高齢者の処遇は軽度と重度を一緒に処遇するべきではないとの考えから軽度・中等度・重度・最重度・身体合併症病棟（Medical Psychiatric Unit-Dementia、MPU-D）と5つの異なったタイプの病棟に分けている。重症度に応じた設備、リハビリプログラムを用意し、MPU-D は必要に応じて内科医、神経内科医、精神科医による複数主治医制としている。精神疾患に対しては地域活動支援センターみらい、一体型指定共同生活開度事業所あいきらきらホームにより地域移行と地域生活サポートを行っている。高齢者に対しては介護老人保健施設、通所デイケア、

訪問看護など各種介護保険施設によりサポートしている。家族が認知症に気付くと医療は敷居が高いため、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などに相談し、介護保険の適用で終わり重度化してから医療を受診することが多くみられる。地域包括支援センターと認知症疾患医療センターを合併してワンストップで早期診断早期介入できる合併型センターを全国で1か所のみモデル事業中である。これに認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員を併設して地域連携パスにより家族・利用者、かかりつけ医など他の社会資源とネットワークを構成している。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析的な精神療法、精神力動療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。また、児童・思春期精神障害の診断・治療を経験する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。パーソナリティ障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指し、下に示す講義を実施する。

専攻医研修会(クルズス)(隔月1回)

- ・ 症候学①
- ・ 症候学②
- ・ 症候学③
- ・ 診断学
- ・ 精神保健福祉法
- ・ 薬物療法①
- ・ 薬物療法②
- ・ 精神科身体療法
- ・ 面接技法、支持的精神療法
- ・ 認知行動療法
- ・ 精神分析的な精神療法
- ・ 心理社会的支援、ソーシャルワーク、デイケア
- ・ 心理検査
- ・ 精神科医が知っておくべき神経内科学
- ・ 精神科医が知っておくべき脳画像診断学
- ・ 脳波(判読)
- ・ 精神科救急
- ・ コンサルテーション・リエゾン精神医学
- ・ サイコオンコロジー、緩和ケア
- ・ こどもの診たて
- ・ 児童福祉・虐待
- ・ 器質性・症状性精神障害
- ・ 統合失調症
- ・ アルコール症
- ・ 双極性障害
- ・ うつ病
- ・ 摂食障害
- ・ パーソナリティ障害
- ・ 自閉症スペクトラム・ADHD、精神遅滞
- ・ 不安症・身体表現性障害
- ・ 睡眠障害
- ・ てんかん
- ・ 認知症

上の33項目の講義を6回に分けて実施する(1サイクル/年)
3年間の専攻中に全てを1回は受講することとする

④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設である広島市民病院、広島大学病院を中心に臨床研究にも参画し、その成果を学会や論文として発表する。

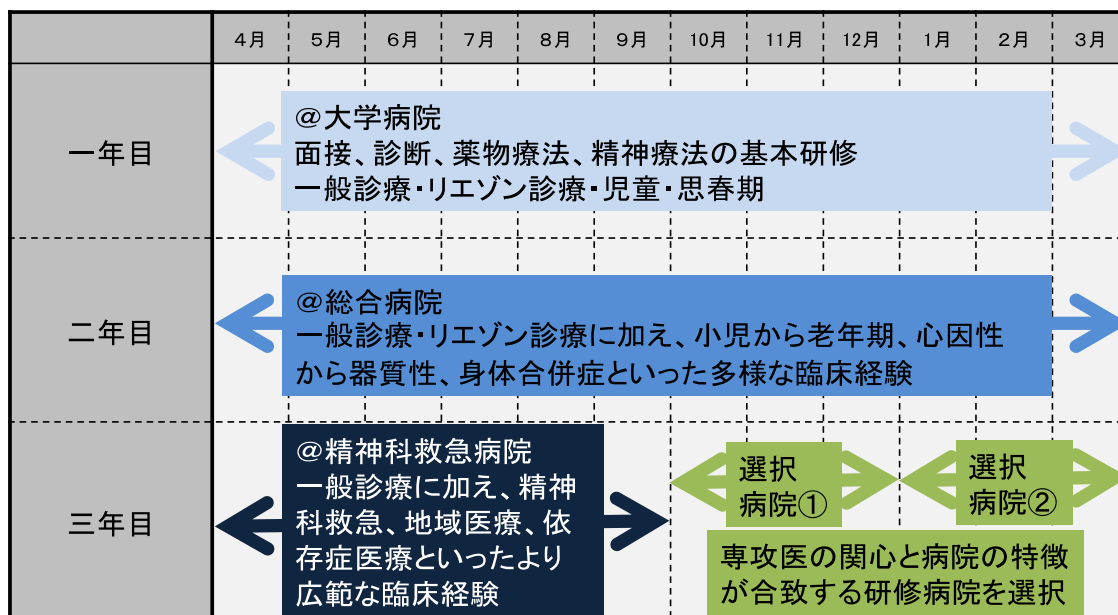
⑤ 自己学習

患者の問題点を正しく把握し、自分なりに解決しようとする自主的・積極的な態度が要求され、医師自身を見つめる態度も重要である。患者を診療する際に現在有している最善を尽くし、その上でわからぬところ、足りないところを正しく把握して自ら勉強し、より良い医療の提供に努める。そのため、自主研修日が定められている。

4) ローテーションモデル

年度研修計画の概要を下に示す

広島市民病院精神科を基幹施設とした年度研修計画



- #1. 二年目、三年目の順序は変更可、期間は変更不可
- #2. 毎年9月、3月に研修施設群全体で専攻医の研修状況を確認
- #3. 毎年度末には、各専攻医の目標達成度を評価/フィードバック
- #4. 各研修施設での研修修了時にも評価/フィードバック

3 年目下半期の研修先病院

専門性	研修病院名
地域医療・社会復帰支援	広島第一病院、ふたば病院
老年期精神医療	メープルヒル病院、光の丘病院
児童・思春期精神医療	松田病院
司法精神医療	賀茂精神医療センター
薬物依存・アルコール症	瀬野川病院、三原病院
気分障害リワーク	草津病院

原則的には1年目に広島大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につけるとともに児童・思春期症例を経験する。2年目には基幹施設であり、総合病院精神科である広島市民病院をローテートし、急性期の精神疾患、

コンサルテーション・リエゾン精神医療、身体合併症医療などを経験する。3年目上半期には、精神科救急を担っている単科精神科病院（瀬野川病院、三原病院、草津病院）をローテートし、統合失調症の急性期症例などを中心に認知症症例、依存症症例などを幅広く経験する。2年目から3年目を通じて、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。3年目下半期には、各専攻医の関心と病院の特徴が合致する研修先を選択可能とし、専門医取得後の更に高度な専門性の獲得につながる研修とすることが可能である。専門領域として、地域精神医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、司法精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなど幅広く選択可能である。3年目上半期の病院で1年間研修することも可能である。

これら3年間のローテート先や順序については、可能な範囲で本人の希望を考慮し、柔軟な対応を行いたいと考えている。

5) 研修の週間・年間計画

本プログラム冊子末尾の資料1から資料3を参照。

4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会

研修管理委員会プログラム組織図 (研修基幹施設：広島市民病院精神科)

研修プログラム統括責任者：和田 健（臨床経験29年）
 指導医：板垣 圭、増田慶一
 看護師：鶴岡小百合（広島市民病院精神科病棟看護師長）
 心理士：小川栄一（広島市民病院精神科先住心理士）

研修連携施設：
広島大学病院
担当者：岡本泰昌

研修連携施設：
草津病院
担当者：矢田博己

研修連携施設：
瀬野川病院
担当者：加賀谷有行

研修連携施設：
三原病院
担当者：小山田孝裕

研修連携施設：
賀茂精神医療センター
担当者：寺井英一

研修連携施設：
ふたば病院
担当者：小鶴俊郎

研修連携施設：
広島第一病院
担当者：松岡龍雄

研修連携施設：
光の丘病院
担当者：石岡芳隆

研修連携施設：
メーブルヒル病院
担当者：石井知行

研修連携施設：
松田病院
担当者：松田文雄

- ・毎年度9月、3月の2回、各専攻医、指導医の評価と助言を行う
- ・規定年数の研修期間後に修了判定を行う

- ・プログラム統括責任者

和田 健

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

広島市民病院：和田 健、板垣 圭、増田慶一、鶴岡小百合、小川栄一

広島大学病院：岡本泰昌

瀬野川病院：加賀谷有行

三原病院：小山田孝裕

草津病院：矢田博己

ふたば病院：小鶴俊郎

光の丘病院：石岡芳隆

賀茂精神医療センター：坂尾良一

松田病院：松田文雄

メーブルヒル病院：石井知行

第一病院：松岡龍雄

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定める。
- ・ 毎年 9 月、3 月に研修施設群全体で専攻医の研修状況を確認し、評価する。
- ・ 毎年度末および各研修施設での研修修了時には、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ各専攻医の目標達成度を評価し、フィードバックする。
- ・ 毎年度末に 1 年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回おこなう。

広島市民病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に 1 回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年 1 回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に反映させる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

なお、各年度における当直の目安は以下の通り。

＜大学病院（1年目）＞

当直：月3回程度

＜広島市民病院（2年目）＞

オンコール待機：月6～8回程度

＜精神科病院＞

当直：月3～4回程度

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) F Dの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

専門医研修週間予定表

①広島市立広島市民病院精神科

	月	火	水	木	金
8:00	入院診療 急患対応	外来診療 (初診含む)	入院診療 ECT担当	外来診療 (初診含む)	入院診療 ECT担当
9:00					
10:00					
11:00					
12:00	入院診療 CLS	入院診療 CLS	入院診療 CLS	入院診療 CLS 部長回診 入院診療	入院診療 CLS
13:00					
14:00					
15:00					
16:00	デイリーカンファレンス	デイリーカンファレンス	デイリーカンファレンス	デイリーカンファレンス	デイリーカンファレンス
17:00		入院患者カンファレンス 論文抄読会	緩和ケアカンファレンス		外来患者カンファレンス
18:00					

#1. 月に1回看護スタッフとのカンファレンスあり

#2. 月に1回脳神経内科との合同カンファレンスあり

専門医研修週間予定表 ②広島大学病院精神科

	月	火	水	木	金	
9:00	外来診察 （陪審、 新患予審）	病棟回診	自主研修 （他病院での 診療援助 を含む）	リエゾン新患 （予審・陪審）	入院患者診察	
10:00		入院患者 カンファレンス			指導医との ケース検討 論文検索	
11:00						
12:00						
13:00	入院患者診察 リエゾン再診	入院患者診察 外来陪審			入院患者診察 外来再診	入院患者診察 リエゾン再診
14:00						
15:00						
16:00	リエゾン カンファレンス	相互に講義				
17:00		症例検討会				
18:00						

#1. 可能な限り、研究に関するミーティングへの参加が望ましい

#2. 水曜日～金曜日は自主研修日によって流動的となる

専門医研修週間予定表

③特定医療法人 大慈会 三原病院

	月	火	水	木	金
9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
10:00	指導医講義	精神科 作業療法	外来陪診 (新患の予診 等)	外来陪診 (新患の予診 等)	外来陪診 (新患の予診 等)
11:00					
12:00					
13:00	急性期検討会	就労支援 プログラム	精神科デイケア 認知症デイケア	症例検討会	アルコール ミーティング
14:00	回想法			認知症初期 集中支援会議	
15:00	入院患者 診察	入院患者 診察	入院患者 診察	入院患者 診察	入院患者 診察
16:00					
17:00	医局会 (抄読会)				
18:00					

専門医研修週間予定表
④医療法人 せのがわ 瀬野川病院

	月	火	水	木	金	土
9:00	外来(新患) Or病棟回診	休	外来 (サテライト クリニック)	外来 (予約外)	外来	外来(新患) Or病棟回診
10:00						
11:00						
12:00						
	医局会					
13:00	病棟回診		病棟回診 Or ケア会議	mECT or 病棟回診	mECT or 病棟回診	mECT or 病棟回診
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						
			病棟回診 Or ケア会議			

専門医研修週間予定表

⑤医療法人社団更生会 草津病院

	月	火	水	木	金	土
9:00		病棟業務		病棟業務	外来(予約)	外来(初診)
10:00	外来(初診)		休	病棟業務		
11:00		チームカンファ (随時)				
12:00					医局会 (月1回)	
13:00						
14:00	病棟業務	外来(予約)		外来	病棟業務	病棟業務
15:00						
16:00						
17:00	チームカンファ (随時)	症例検討会 (随時)		チームカンファ (随時)	チームカンファ (随時)	症例検討会 (随時)
18:00					臨床セミナー (月1回)	

資料1

専門医研修週間予定表
⑥医療法人社団 和恒会 ふたば病院

	月	火	水	木	金
9:00					
10:00	外来診察 (陪審、 新患予審)	外来診察 (陪審、 新患予審)	外来診察 (陪審、新患 予診)	外来診察 (陪審、新患 予診)	外来診察 (陪審、新患 予診)
11:00					
12:00			薬物情報講義(新 規薬物など必要時)		
13:00			多職種による入 院カンファレンス		
14:00			症例検討会		
15:00	入院患者診察 施設患者診察	入院患者診察	入院患者診察 施設患者診察	入院患者診察 施設患者診察	入院患者診察 施設患者診察
16:00					
17:00					

- #1. 認知症関連の院外研修会なども随時参加になる。
- #2. 入院患者診察の時間内にもケースカンファや指導医のスーパーバイズを随時行う
- #3. 認知症初期集中支援会議(月2回)への参加は必須
- #4. 院内のスタッフや地域の市民にむけての教育的講義も行う。

専門医研修週間予定表

⑦医療法人 緑誠会 光の丘病院

	月	火	水	木	金		
9:00	病棟業務	回診、 入退院報告	外来業務	病棟業務	外来業務		
10:00		多職種カン ファレンス ケースカン ファレンス					
11:00							
12:00							
13:00	薬物療法 勉強会 病棟業務	医局会 (第2週) 運営会議 (第3週)	外来業務	デイケア 業務 病棟業務	認知症疾患 医療センター 研修		
14:00					認知症症例 検討会		
15:00							
16:00							
17:00					アウトリーチ		

専門医研修週間予定表

⑧賀茂精神医療センター

	月	火	水	木	金
8:30	医局コメディカル合同ミーティング、入退院患者紹介、ミニカンファレンス				
9:00	医療観察法病棟多職種治療チーム情報共有カンファレンス				
10:00	医療観察法病棟 指導医面接陪席 (患者・家族)	医療観察法病棟 指導医面接陪席 (患者・家族)	医療観察法病棟 ユニットミーティング 病棟全体会議	医療観察法病棟 治療プログラム	指導医 ケース検討 研修振り返り
11:00					
12:00	国立病院機構 精神医学講義				国立病院機構 精神医学講義
13:00	管理診療会議	医療観察法病棟治療 プログラム ケア会議 CPA会議 外出付添	医療観察法病棟 倫理運営会議 (第1週) 病棟会議 (第2・4週) 治療プログラム検討	医療観察法病棟治療 プログラム ケア会議 CPA会議	医療観察法病棟治療 プログラム ケア会議 CPA会議
14:00	医療観察法病棟 治療評価会議				
15:00					
16:00	医療観察法病棟 指導医面接陪席 (患者・家族)	院内宿泊施設会議(第 4週)	医局カンファレンス 医薬品情報カンファレ ンス	医療観察法病棟 指導医面接陪席 (患者・家族)	医療観察法病棟 指導医面接陪席 (患者・家族)
17:00					

専門医研修週間予定表

⑨医療法人翠星会 松田病院

	月	火	水	木	金
8:30					
9:00	外来診察 (陪審、 新患予審)	外来診察 再診患者の 診察	入院患者の 診察	外来診察 再診患者の 診察	児童思春期 病棟カンファ レンス
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	病棟診察 集団精神療法 への参加	芸術療法	成人病棟 カンファレンス	SST参加 デイケア診察	
14:00		児童思春期 病棟カンファレンス (医師全員参加)			院内研修会
15:00					
16:00					ケースカンファ レンス
17:00	症例検討 スーパービジョン		院内勉強会 (多職種参加)		
18:00					

#1. 可能な限り、各病棟カンファレンスへ参加

専門医研修週間予定表

⑪医療法人社団 和風会 広島第一病院

	月	火	水	木	金
9:00	申し送り 外来陪審 (新患予審)	申し送り 外来陪審 (新患予審)	申し送り 病棟診察	申し送り 重度認知症 DC	申し送り 病棟診察
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	病棟診察 急性期合併症病棟 ECT(修正型)	病棟診察 退 院促進病棟	病棟診察 急性期合併症病棟	病棟診察 急性期合併症病棟 ECT(修正型)	病棟診察 退院促進病棟
14:00					
15:00		作業療法 精神科DC			精神科訪問 看護
16:00					
17:00					
18:00					

- #1. 可能な限り、病棟カンファレンスへの参加が望ましい
 #2. 曜日に関係なく初診患者の予診を執る

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

専門医研修年間スケジュール 資料2

①広島市立広島市民病院精神科

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	広島精神科病診連携懇話会(参加)
6月	日本精神神経学会学術総会(可能な限り参加) Clinical Dementia Meeting(参加)
7月	広島精神科病診連携懇話会(参加) 広島精神神経学会参加 中国6大学研修会(参加)
8月	Hiroshima ECT Meeting(参加)
9月	広島精神科病診連携懇話会(参加)
10月	中国地区GHP研究会(参加) 日本臨床精神神経薬理学会総会(可能な限り参加) Clinical Dementia Meeting(参加)
11月	広島精神科病診連携懇話会(参加) 中国・四国精神神経学会(参加、演題発表) 日本総合病院精神医学会総会(可能な限り参加)
12月	広島精神神経学会(参加、演題発表)
1月	広島精神科病診連携懇話会(参加、演題発表)
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	広島精神科病診連携懇話会(参加) 中国地区GHP研究会(参加) 専門医研修総括の評価

専門医研修年間スケジュール

②広島大学病院精神科

資料2

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション 基本研修講義
5月	県内多施設症例検討会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	広島精神神経学会参加・演題発表 県内多施設症例検討会参加
8月	中国6大学研修医研修会
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 中国地区GHP(総合病院精神医学)研究会参加
10月	県内多施設症例検討会参加
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表 日本総合病院精神医学会参加(任意) 日本臨床精神神経薬理学会参加(任意)
12月	広島精神神経学会参加・演題発表
1月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
2月	
3月	県内多施設症例検討会参加・症例提示 中国地区GHP(総合病院精神医学)研究会参加 研修プログラム評価報告書の作成

専門医研修年間スケジュール 資料2

③特定医療法人 大慈会 三原病院

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	院内症例検討会(毎月開催) 院内英語文献抄読会(毎月開催) 院内勉強会(毎月開催)
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	夏季広島精神神経学会参加 国際神経精神薬理学会演題発表
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	日本生物学的精神医学会参加 研修プログラム評価報告書の作成

専門医研修年間スケジュール 資料2

④医療法人 せのがわ 瀬野川病院

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会大会参加(任意)
7月	広島精神神経学会参加
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	薬物医療臨床医師研修参加(任意) 研修プログラム評価報告書の作成

専門医研修年間スケジュール

⑤医療法人社団更生会 草津病院

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7月	日本うつ病学会参加(任意)
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	研修プログラム評価報告書の作成

専門医研修年間スケジュール

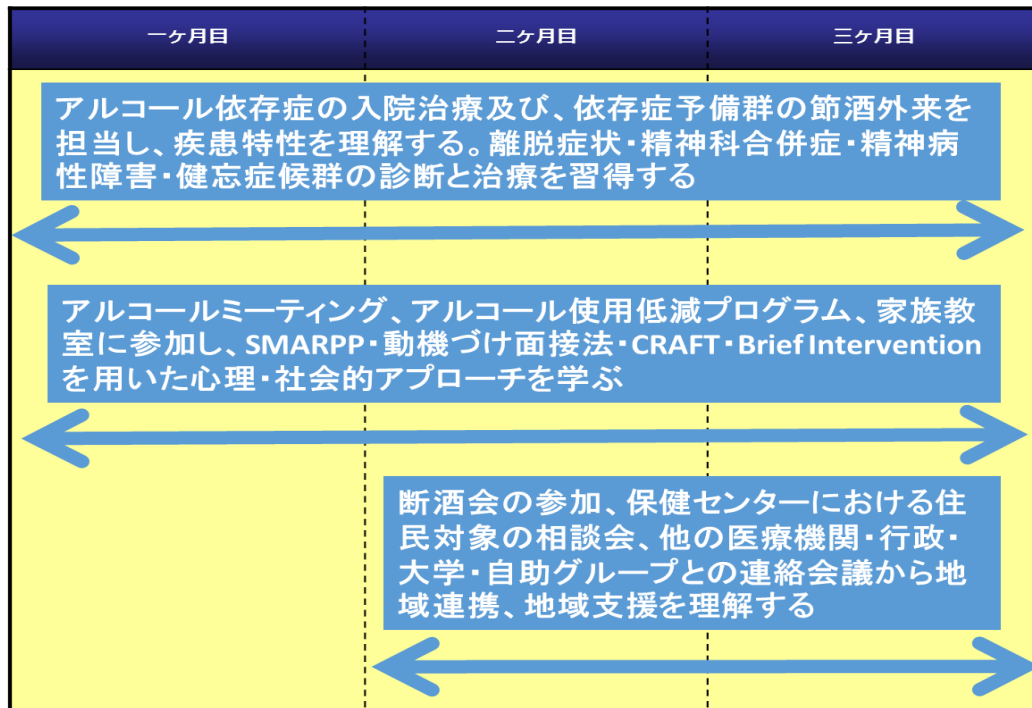
⑥三年目下半期

月	カリキュラム
10月	(選択研修病院①)オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	(選択研修病院②)オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

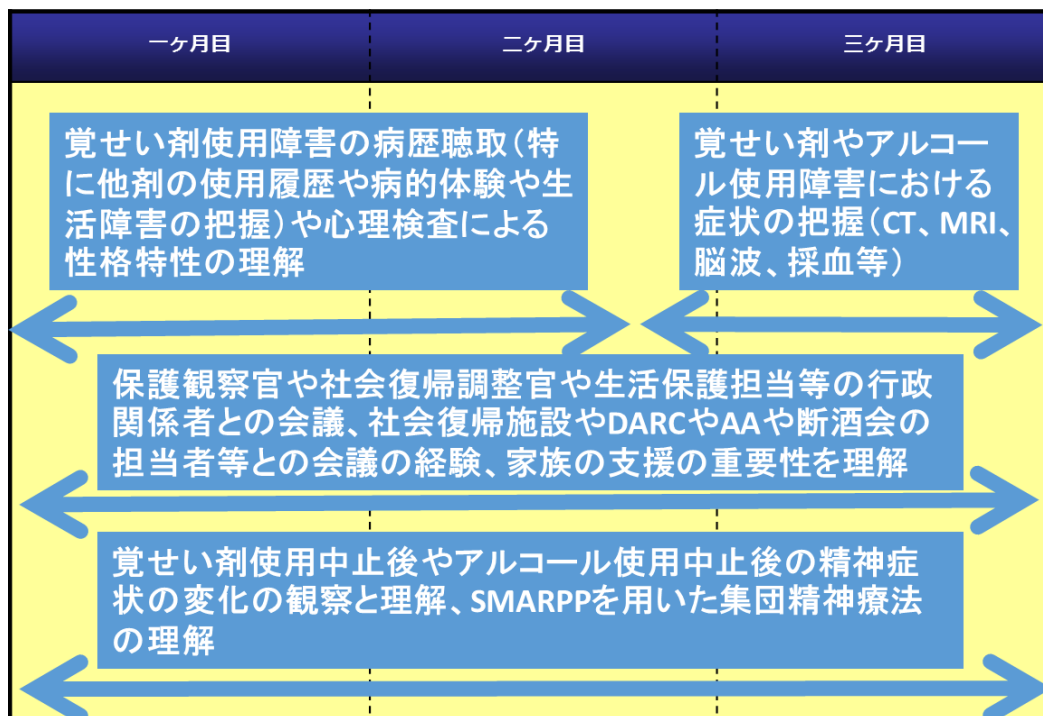
選択研修カリキュラム

①三原病院(アルコール症)

資料3



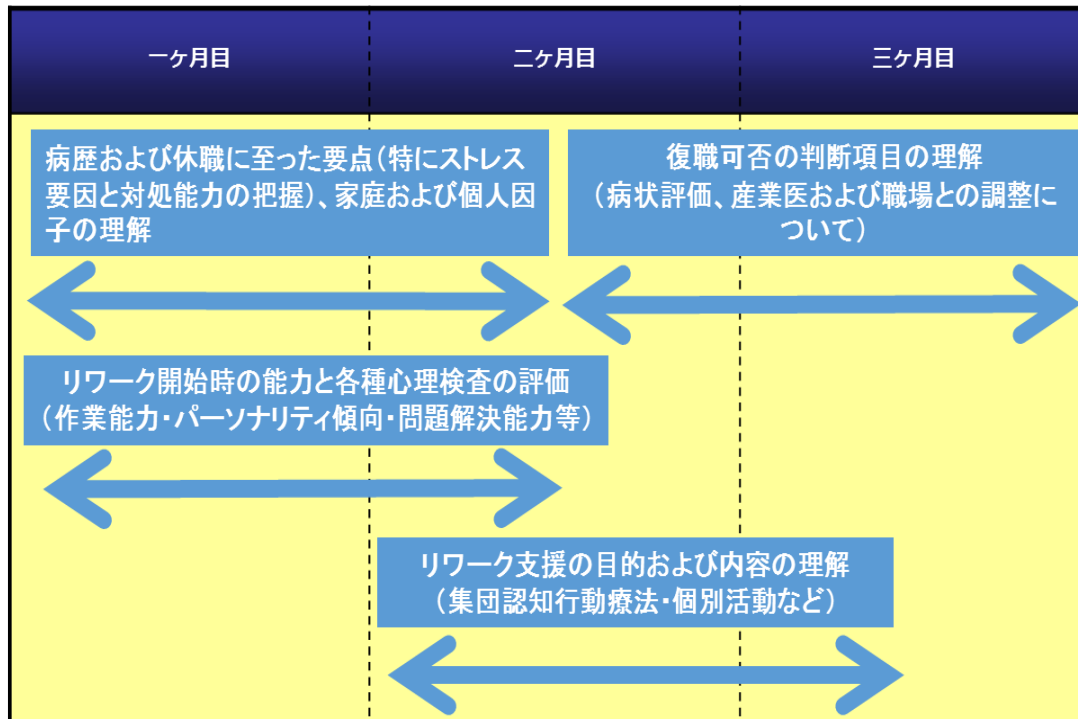
②瀬野川病院(薬物依存)



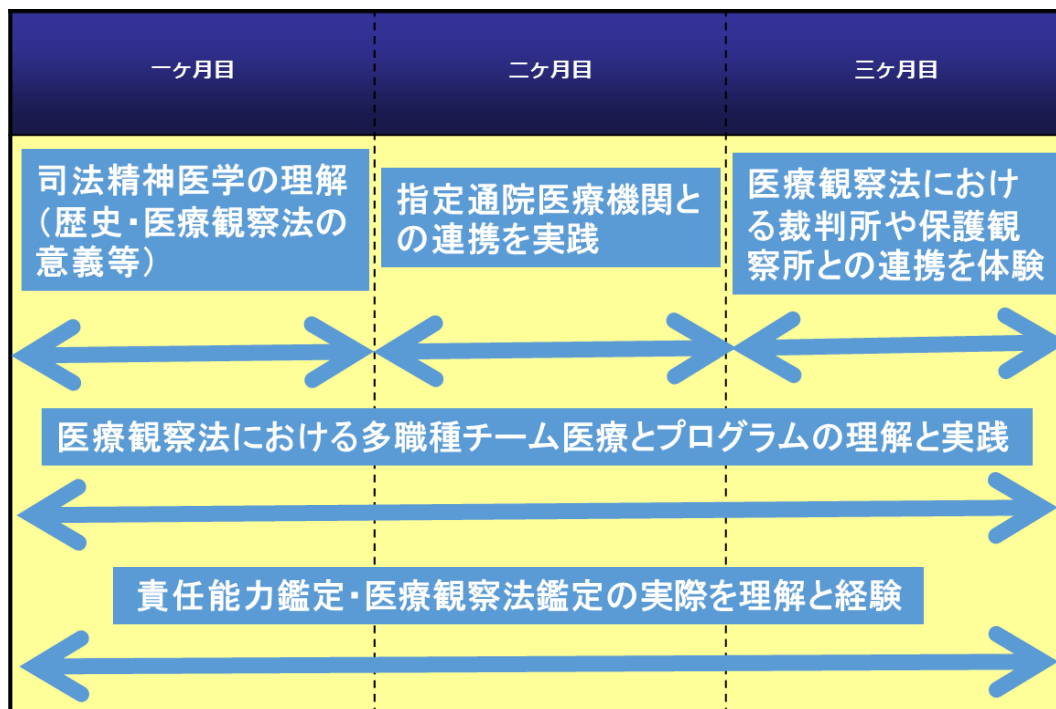
選択研修カリキュラム

③草津病院（気分障害リワーク）

資料3



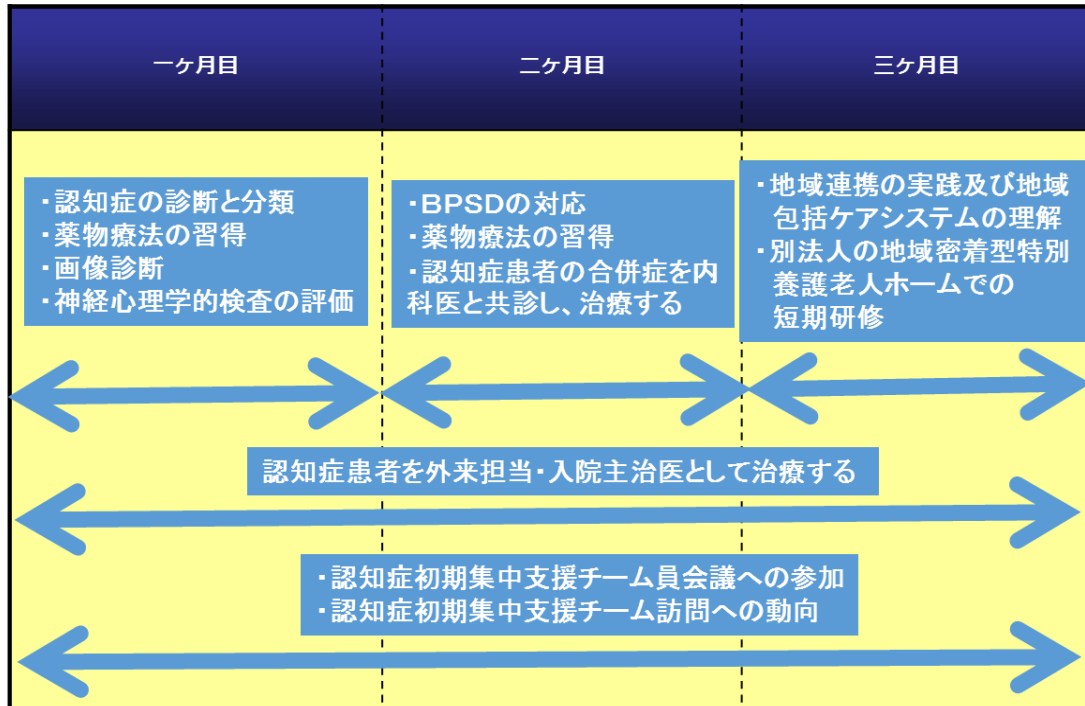
④賀茂精神医療センター（司法精神医療）



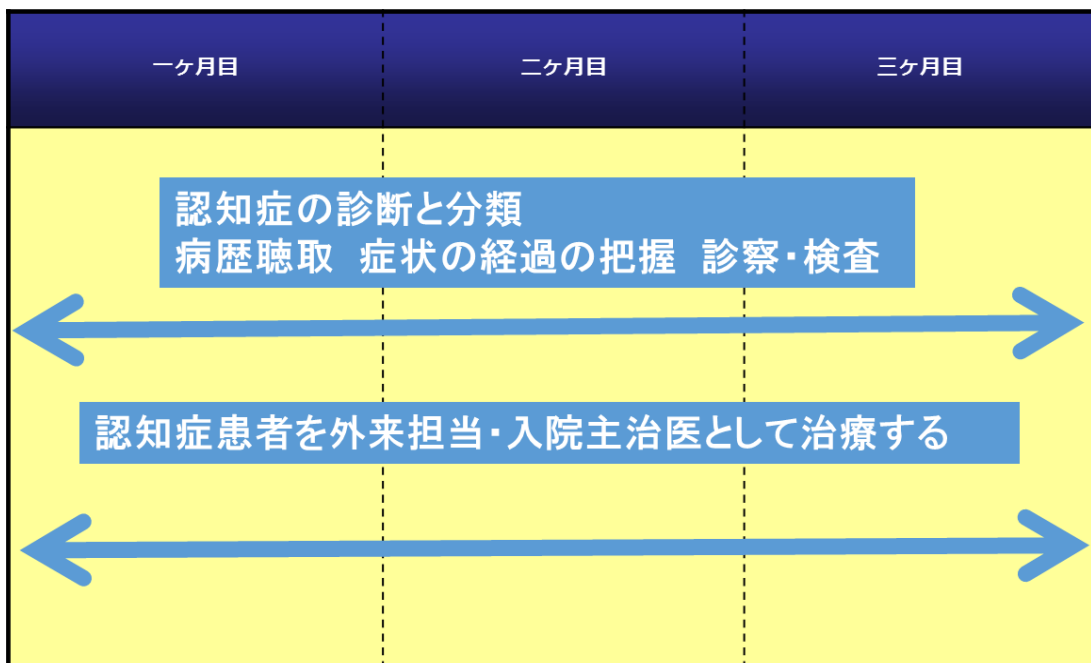
選択研修カリキュラム

資料3

⑤光の丘病院(老年期精神医療)



⑥メープルヒル病院(老年期精神医療)



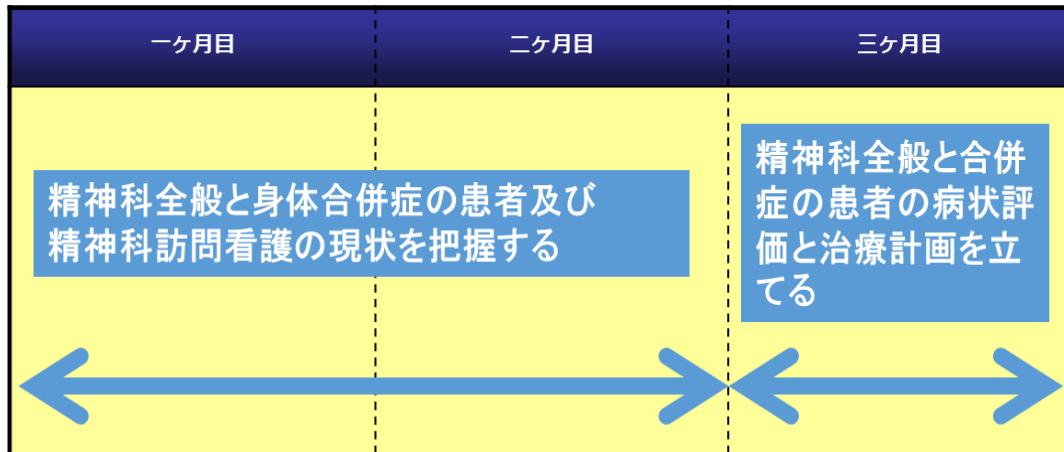
資料3

一ヶ月目	二ヶ月目	三ヶ月目
【児童・思春期精神疾患】 入院患者を指導医と共に受け持ち、診察 家族への支援や、関係機関との連携について		
外来での初診患者 の予診、陪診	外来での再診患者、初診患者の診察	
児童・成人での神経 発達症群の病歴を聴 取	神経発達症群の患者 の心理検査の所見を 学ぶ	神経発達症群の診断、 治療について学ぶ

選択研修カリキュラム

資料3

⑨広島第一病院（地域医療・社会復帰支援）



⑩ふたば病院（地域医療・社会復帰支援）

